

週間火山概況（平成 26 年 8 月 22 日～ 8 月 28 日）

【火山現象に関する警報等の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 火山現象に関する警報等の発表履歴（平成 26 年 8 月 22 日～ 8 月 28 日）

発表日時	火山名	特別警報・ 警報・予報	概 要
27 日 10 時 12 分	桜島	降灰予報	噴火に伴う降灰地域予想
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 8 月 28 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島、口永良部島
	入山危険	西之島
	レベル 2（火口周辺規制）	草津白根山、三宅島、霧島山(新燃岳)、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、新潟焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島
	平常	上記以外の活火山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山（8 月 28 日現在）

この資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）にも掲載しています。

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

くさつしらねさん

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、その後、消長を繰り返しながら多い状態が続いています（図2）。今期間、火山性微動の発生はなく、遠望カメラによる噴気などの状況等、その他の観測データにも特段の変化は認められませんでした。

GNSS¹⁾観測によると、湯釜付近の膨張を示す変動が引き続きみられています。全磁力観測によると、5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示す変化は小規模なものであったとみられ、7月以降は停滞しています。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

〈回〉

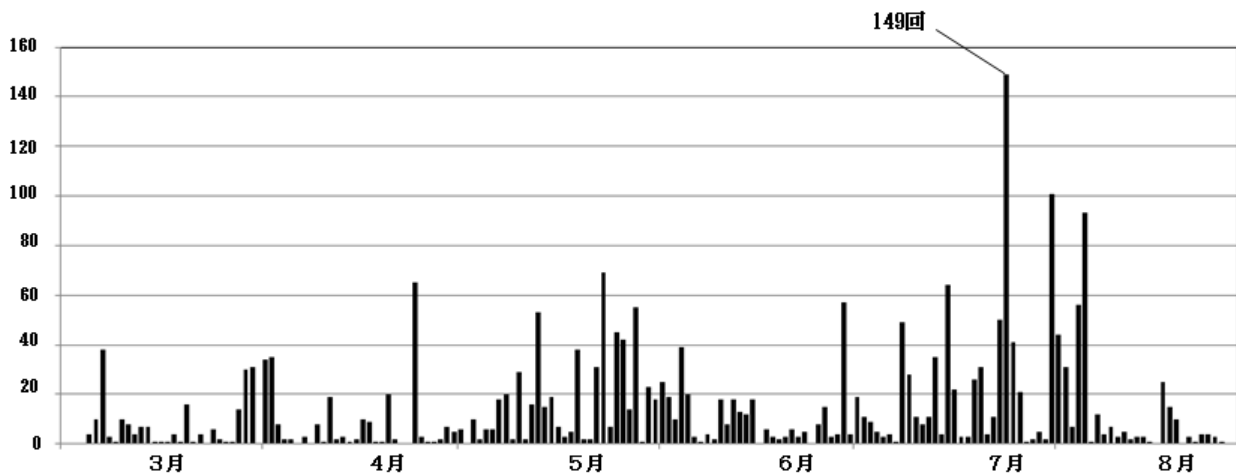


図2 草津白根山 日別地震回数（3月1日～8月28日）

みやげじま

三宅島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

今期間、噴煙の高さは、火口縁上100m以下で経過しました。

火山性地震は、やや少ない状態で経過しました。

三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒してください。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があると言われる地域では、火山ガスに警戒してください。

にしおしま

西之島〔火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報〕

海上保安庁などの観測によると、西之島では活発な噴火活動が続いています。

26日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、北側火口の東側に白色の噴煙を連続的に噴出する新たな火口（東側火口）が確認されました（図3）。北側火口内の溶岩の湧き出し（溶岩マウンド⁵⁾）からは、短い間隔で溶岩片を噴出する噴火を繰り返していました。溶岩マウンドはほぼ楕円形で、大きさは長径約90m、短径約60mでした（図4）。北側火口と南側火口の間火口では青白色の噴煙を噴出していました。溶岩流は東側へ流下し、海面に接した場所では白煙を上げていました。新たな陸地の大きさは、東西方向に約1,550m、南北方向に約1,250m、面積は約1.21km²（前回7月23日：1.08km²）でした。

今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね6km以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。



図3 西之島の状況（8月26日撮影）



図4 北側火口内の溶岩マウンド（8月26日撮影）

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震は3月からやや多い状態で経過しています。継続時間の短い火山性微動が27日に1回発生しましたが、遠望カメラでは特段の変化は認められませんでした。

GNSS¹⁾観測によると、2月下旬頃から隆起の傾向がみられています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

福徳岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による上空からの観測は行われませんでした。これまでのこれら機関の観測によると、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されま

すので、周辺海域では噴火に警戒してください。

きりしまやま しんもえだけ
霧島山（新燃岳）【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

新燃岳では今期間、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

傾斜計²⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

GNSS¹⁾観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していましたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられます。

今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき⁴⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

さくらじま
桜島【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

桜島では、活発な噴火活動が続きました。

昭和火口では、爆発的噴火が 24 回発生し、大きな噴石³⁾が 4 合目（昭和火口より 800～1,300m）まで達しました。また、同火口では、夜間に高感度カメラ⁶⁾で明瞭に見える火映を時々観測しました。

南岳山頂火口では、噴火は観測されませんでした。

27 日実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり平均 1,700 トン（前回 7 月 8 日 2,000 トン）とやや多い状況でした。

桜島島内の傾斜計²⁾では、2014 年 4 月頃から山体が隆起する傾向がみられていましたが、7 月中旬頃から山体が沈降する傾向となっています。

GNSS¹⁾連続観測では、桜島島内の基線で、2014 年 1 月頃から伸びの傾向がみられていましたが、7 月頃から停滞しています。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向は、2013 年 6 月頃から停滞していますが、長期的には膨張が進行しています。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾（火山れき⁴⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

くちのえらぶじま
口永良部島【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

口永良部島では今期間、噴火は発生しませんでした。火山活動の高まった状態が継続しています。

火山性地震が時々発生しました。また、火山性微動は観測されませんでした。

28 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 400 トン（前回 20 日：200 トン）と噴火前に比べて多い状態が続いています。

23 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、新岳火口及び割れ目からの噴気が確認されました。

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

すわのせじま
諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

諏訪之瀬島では 28 日 12 時 50 分に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 2,000m まで上がり東へ流れました。諏訪之瀬島で噴火が発生したのは、7 月 17 日以来です。また、2,000m の最高噴煙高度を観測したのは、2008 年 10 月 23 日以来です。

火山性地震は噴火後やや多い状態で経過しています。また、噴火に伴う火山性微動を観測しました。

あたけ
御岳火口では、夜間に高感度カメラで火映を時々観測しました。

諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石³⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石³⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

阿蘇山^{あそさん}[噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

阿蘇山では、孤立型微動⁷⁾、火山性地震がやや多い状態で経過していましたが、26日に一時火山性微動の振幅が大きくなりました。27日以降、孤立型微動、火山性地震は多い状態で経過しています。

27日に実施した現地調査では、中岳第一火口内の熱活動の高い状態が継続していました。

以上のように、中岳第一火口の火山活動は、わずかに高まった状態で経過していることから、今後の火山活動の推移には注意する必要があります。今後も火口内では、土砂や火山灰を噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。
- 3) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 4) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 5) 火口内に湧き出した溶岩が丘状に高まりを作ったもの。
- 6) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等によります。
- 7) 阿蘇山特有の微動で、火口直下のごく浅い場所で発生しており、周期0.5～1.0秒、継続時間10秒程度で振幅が5 $\mu\text{m/s}$ 以上のものを孤立型微動としています。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。

詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒
レベル4（避難準備）		入山危険
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	火口周辺危険
レベル2（火口周辺規制）	噴火予報	平常
レベル1（平常）		

海底火山については、噴火警報（周辺海域）（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表します。 印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。